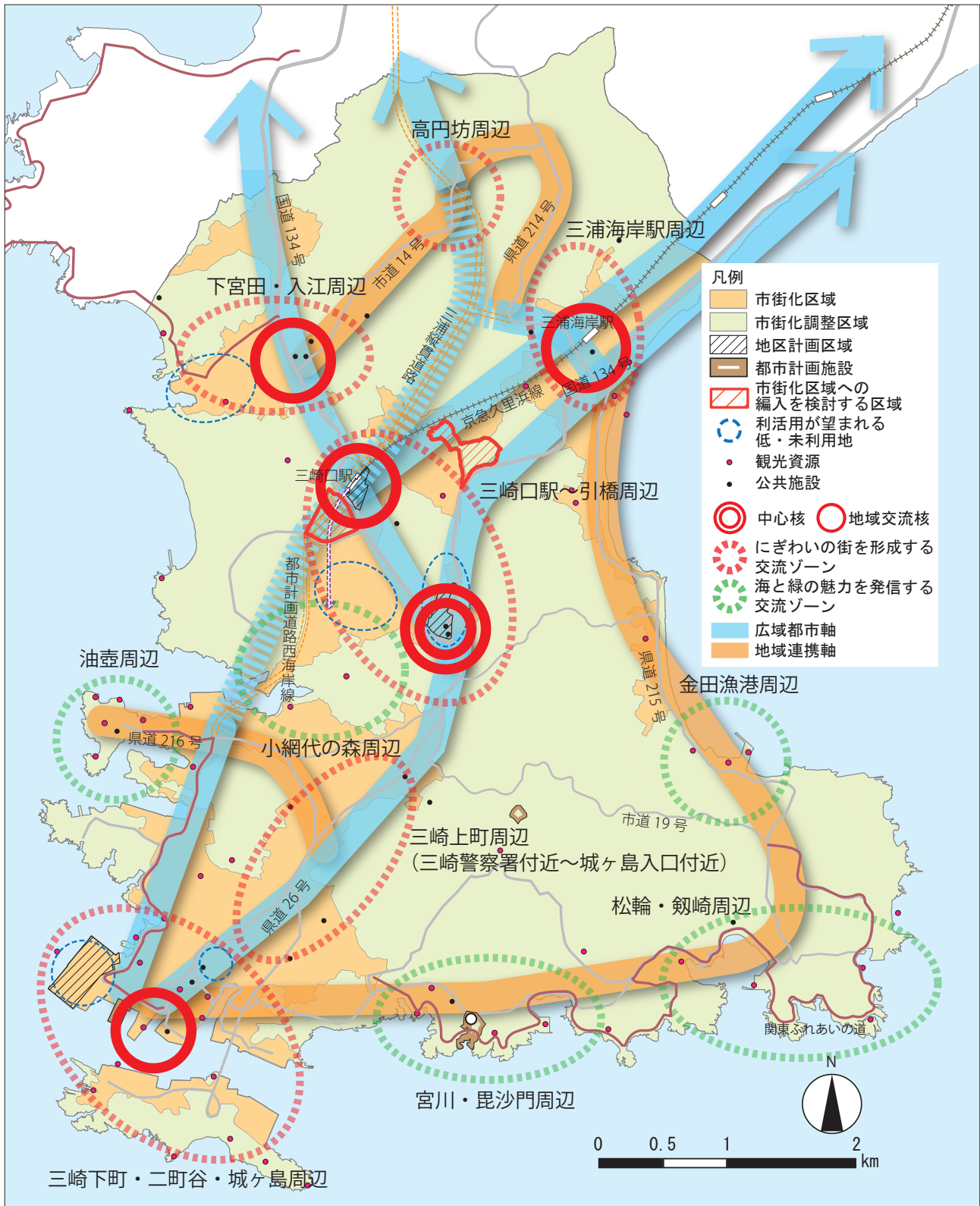


6. 地域交流ゾーンの目指す市街地像

これまで「現況と課題」「都市づくりの目標」「5つの都市づくりの方針」をまとめてきました。これらに基づき、人口減少、少子高齢化の中で地域の特性に応じた地域交流ゾーンの目指す市街地像を示します。(図3-6-1 参照)



■図3-6-1 地域交流ゾーン 位置図

(1) にぎわいの街を形成する交流ゾーン

ア 三浦海岸駅周辺 (図 3-6-2 参照)

本ゾーンは、三浦市の北東部に位置し、三浦海岸駅、国道 134 号の沿線で、交通利便性が高く、住宅のほか、商店、飲食店、金融機関、医療機関等の生活利便施設や公共施設等が数多く立地しています。町単位 (上宮田) では、市内で唯一 1 万人以上の人口を有しています。

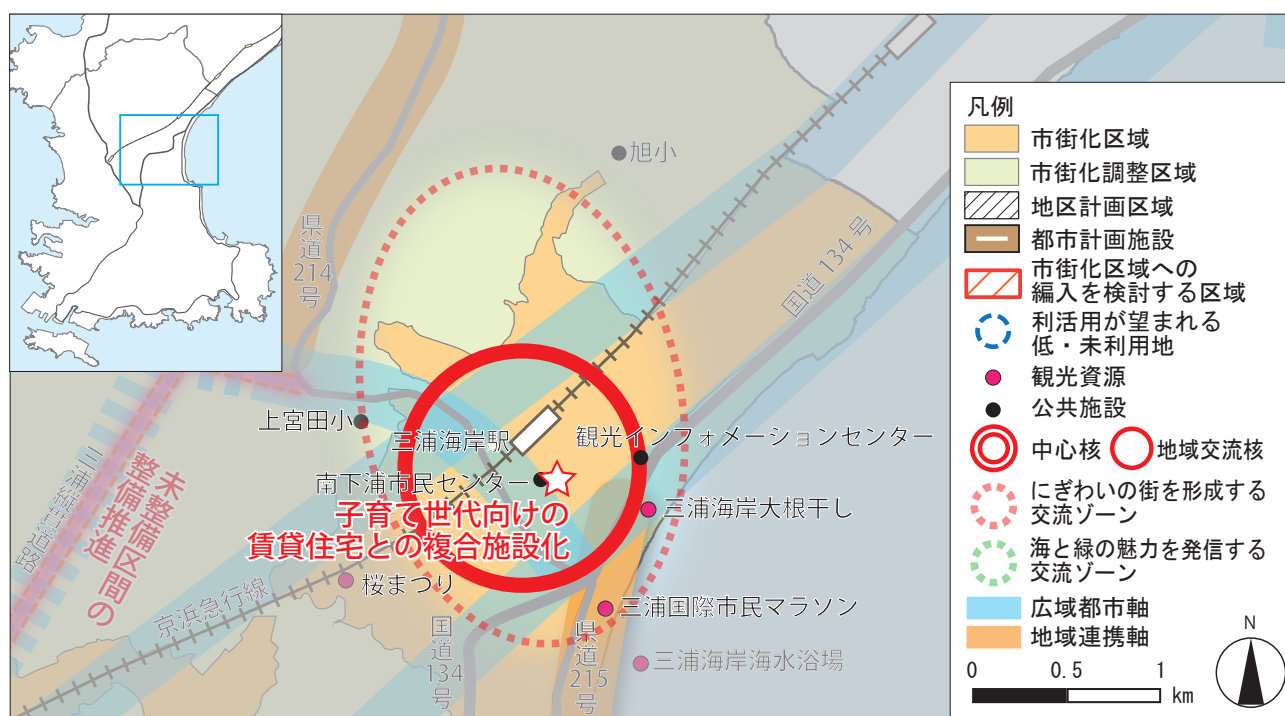
三浦海岸駅周辺は、定住・交流を支える機能が集まる代表的な市街地である『地域交流核』であり、南下浦市民センター用地において、現在の公的機能を備えた子育て世代向けの賃貸住宅との複合施設化を検討しています。

観光面では、三浦海岸は、夏季には三浦半島を代表する海水浴場として多くの入込客があり、冬季には冬の風物詩である「大根干し」の景観が広がっています。

日本で唯一のホノルルマラソン姉妹レースの三浦国際市民マラソンが毎年開催され、桜まつりの期間中には多くの人が観桜に訪れるなど、年間 190 万人を超える観光客が訪れており、多くの宿泊施設を有する観光の拠点にもなっています。

これらのことから、「交流と生活の拠点となるまち」を目標とし、三浦市の玄関口である駅、住宅、生活利便機能、海浜リゾート機能の複合地という特性をさらに活かした市街地の一体的な形成及び周辺環境と調和したゆとりのある良好な住宅地の形成を目指します。

また、防災面からは、海に近く、津波や高潮等への対策が必要であることから防災・減災対策を進めていきます。



■ 図 3-6-2 三浦海岸駅周辺

イ 三崎口駅～引橋周辺 (図 3-6-3 参照)

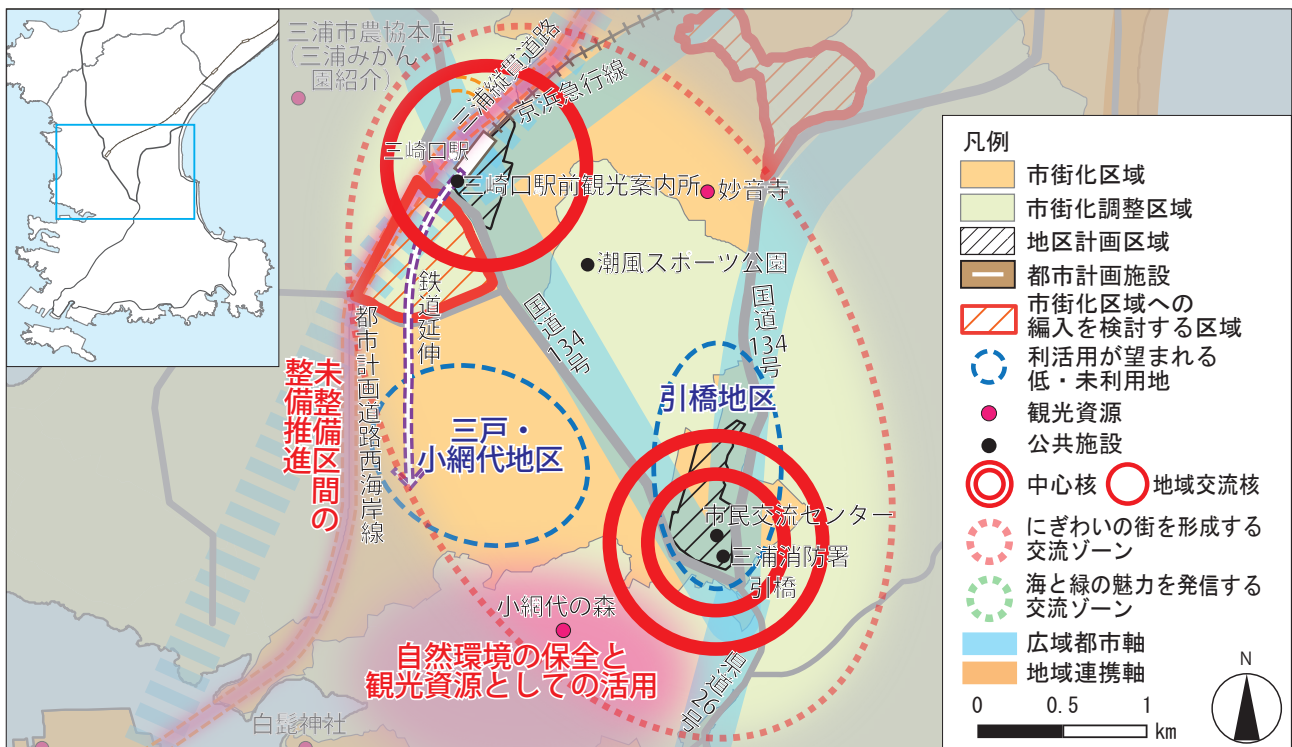
本ゾーンは、三浦市の中心部に位置し、鉄道の始発駅である三崎口駅があり、国道 134 号の沿線で、更に引橋は、国道 134 号と県道 26 号との結節点であることから、交通利便性の高い地域です。潮風スポーツ公園は、年間を通して約 5 万人の方に利用されています。町単位(下宮田)では、人口が横ばいの状況となっています。

引橋周辺は、『中心核』として、『交通結節点として市内各地域及び各地域交流核をつなぐとともに、「人・まち・自然の鼓動を感じる都市 みうら」の「顔」として三浦市域全体を一体化する役割をもつ』ため、県立三崎高等学校跡地の利活用を進めています。このうち、市民交流センターの小網代の森インフォメーションスペースでは、自然環境の保全、交流人口の拡大等に努めています。

三崎口駅周辺は、定住・交流を支える機能が集まる代表的な市街地である『地域交流核』ですが、住宅はあるものの商業・業務機能等の充実が図られていない状況や鉄道の延伸計画・三戸小網代土地区画整理事業の事業凍結といった課題もあります。

また、三浦縦貫道路及び都市計画道路西海岸線の未整備区間は、市内外との連携を促進する本市の骨格的な交通軸として整備推進を図っています。

これらのことから、「交流機能を備えた将来の中心拠点となるまち」を目標とし、広域交通、地域内交通の結節点として都市的土地利用が図られるよう、商業・業務機能等を充実させながら、交流機能を備えた将来の中心的な市街地形成を目指します。



■ 図 3-6-3 三崎口駅～引橋周辺

ウ 三崎下町・二町谷・城ヶ島周辺（図 3-6-4 参照）

本ゾーンは、市の南西部に位置し、県道 26 号への依存度が高く、土日祝日などには交通渋滞が発生しており、また、鉄道駅から遠いことから交通利便性に課題があります。人口については、減少が著しく、それに伴い空き家も多い状況となっています。

三崎港周辺は、定住・交流を支える機能が集まる代表的な市街地である『地域交流核』であり、チャッキラコで有名な海南神社や昭和風情のある建築物が「みなとまち」の歴史を感じさせます。

城山周辺は、集中する公有財産について民間活力を活用した施設の整備・管理運営の検討をしています。

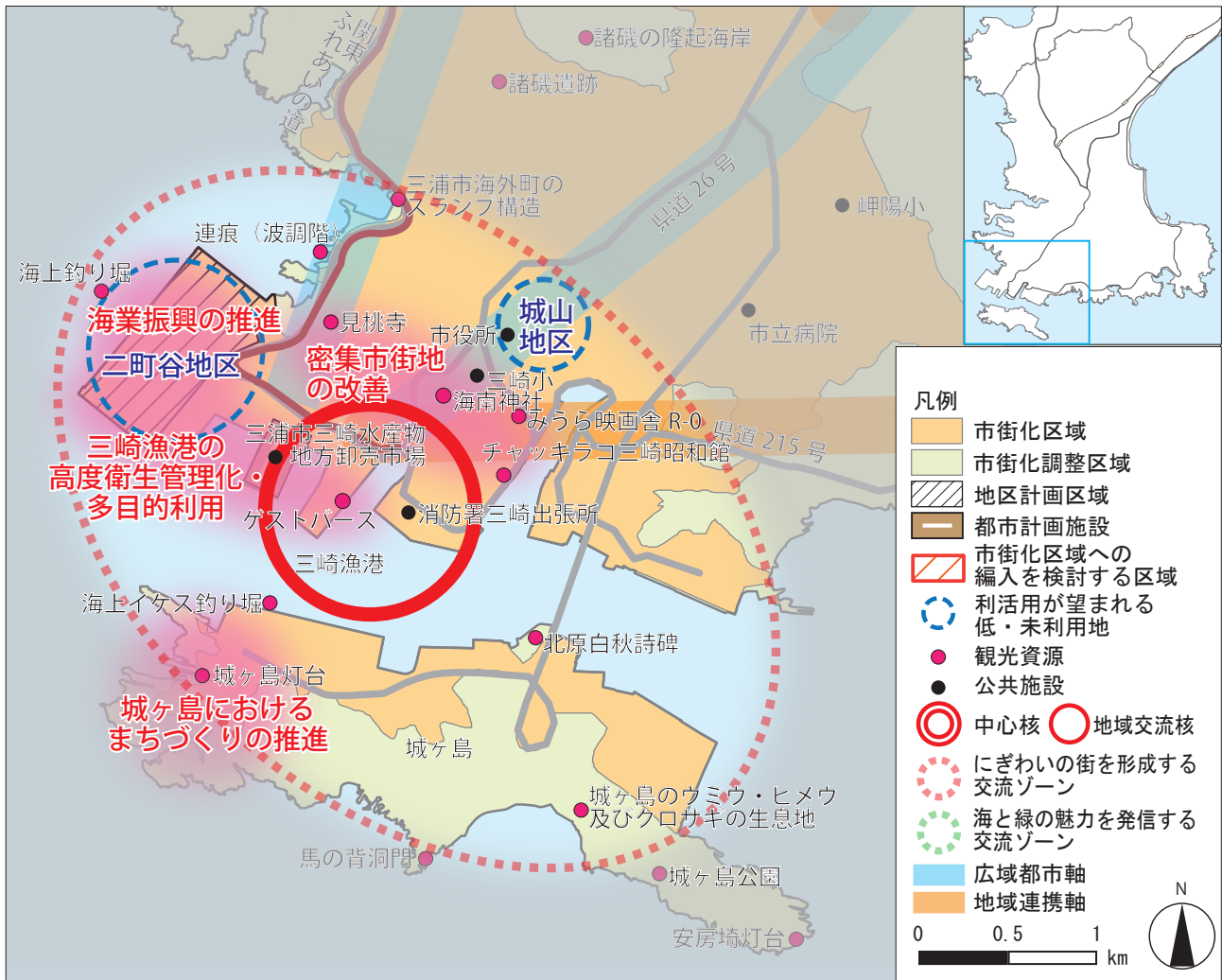
城ヶ島周辺は、近年、新たな観光の核づくりの認定、ミシュラン・グリーンガイド・ジャポンの 2 つ星等、国内外で注目されています。

観光面では、日本有数のまぐろの水揚げがある三崎漁港を有する水産業（漁業）の拠点であり、プレジャーボートが係留できる三崎漁港ゲストバースも整備され、関連したグルメ・海洋リゾートなどの観光商業地であり、国内ツアーの誘致、みさきまぐろきっぷによる誘客等により、観光客数は、近年増加傾向にあります。

産業面では、近年、三崎魚市場取扱量は減少傾向にあり、水産物流通加工業務団地（二町谷地区）の活用が進まないといった課題がありますが、市場の高度衛生管理化による競争力強化や漁港施設の多目的な利用も含めた利活用が検討されています。

これらのことから、『「みなとまち」の風情と活気ある交流の拠点となるまち』を目標とし、海や自然を活かした産業や、グルメ・海洋リゾートなどを拠点にした回遊性の高い観光商業地等、海業の中心的な市街地形成を目指します。

また、防災面からは木造建物が密集しているエリアとなっていること、海に近く津波や高潮等への対策が必要であることから、防災・減災対策を進めていきます。



■図 3-6-4 三崎下町・二町谷・城ヶ島周辺